

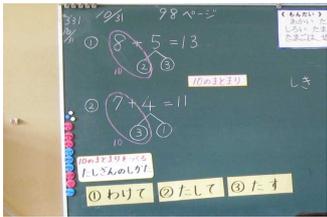
数学的活動事例

1年 2学期 単元名「たしざん」

指導計画（全12時間）

第1時	9 + 4の計算の仕方(加数分解)を考える
第2時	被加数が9の場合の計算の仕方
第3時	被加数が8の場合の計算の仕方
第4時	被加数が8, 9の場合の計算の練習
第5時	被加数が7の場合の計算の仕方(加数分解)と練習
第6時	3 + 9の計算の仕方(被加数分解)を考える
第7時	1位数 + 1位数で繰り上がりのある計算の練習、文章題の解決
第8～12時	計算カードを用いた加法計算の練習

ねらい：1位数どうしの繰り上がりのある加法計算において、被加数の方が加数より小さい場合の計算の仕方を考えることができる。

	学習活動	留意事項（・） 結果（○）
1	前時の学習内容を復習する。	<p>○ 前時まで学習した加数分解の方法について、全員で振り返ることができた。</p> <p>○ 10のまとまりの作り方を確認し、計算の仕方を唱えて、10のまとまりをつくるよさを確認した。</p> 
2	本時の学習課題を考える。	<p>学習課題 3 + 9の けいさんのしかたを かんがえよう。</p> <p>・ 題意を読み取るために、問題文の被加数と加数を丸で囲み、問われていることに波線をひき、助数詞には二重丸を付けるように指導する。</p>
3	グループで具体物の操作をする。	<p>・ 卵の動かし方を考えるとともに、どうしてそのように動かしただか説明し合うように指導する。</p> <p>○ グループで「3個の方から1個動かすと10ができるね」や「7を動かすより、1個動かした方が簡単だね」と話しながら、具体物を動かすことができた。</p>  <p>具体物の操作中</p>
4	自力解決をする。	<p>・ 具体物を操作したことを、自力で、ブロック、式、図、言葉を使って説明をかくように指導する。</p>

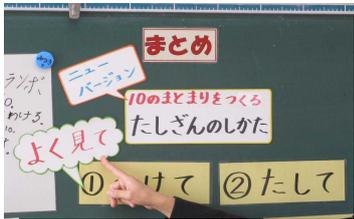
		<p>・自分の好きな方法を選んで説明ができれば、別の方法での説明の仕方を考えるように指導する。</p> <p>○全員の児童が、1つは説明を書くことができた。</p>
5	<p>・グループでの意見交流</p> <p>・全体での意見交流を行う。</p>	<p>・グループで意見交換をする際には「分かりやすく説明できたか」という観点で互いに説明し合うように指導する。</p> <p>・グループでの活動の場では、友達の解き方でよいものがあつたら、取り入れるように指導する。</p> <p>・全体での意見交流では、友達のかいた説明を別の児童が分かりやすく説明できるようにする。</p> <p>○マル図、言葉、ブロック、サクランボ図を使って考えを黒板やホワイトボードに表したり、友達の考えを自分の言葉で説明したりすることができた。</p>
6	<p>本時のまとめをする。</p>	<p>○①の「わけて」の前に「よく見て」を入れることで、式で使われている数字の大小を意識してみようとする児童の姿が見られた。</p>
7	<p>練習問題に取り組む。</p>	<p>・2問（$2+9$、$4+7$）に取り組む。</p> <p>○全員が、2問ともに式をよく見て被加数を分けて、自力解決することができた。</p>



グループでの交流



友達の考えを説明



↑「よく見て」がポイント

- * 具体物を操作したことによって、被加数と加数に関係なく、小さい数を分解すればよいことに、気付くことができた。
- * 友達の考えを説明する活動を取り入れた結果、友達がかいたマル図やブロック、サクランボを使った式などをよく見て、自分の言葉で説明しようという意欲が高まった。
- * 黒板に説明を書く児童と、実際に説明をする児童を変えたことで、多くの児童に発表する機会を与えることができた。
- * 分解するときに、9を分けるという考えが出なかった。そのため、計算の工夫として、「小さい数を分ける」という言葉が出てこなかった。